



▲由真さんのテレワーク風景。新型コロナウイルスの影響で、多様な働き方ができるようになった

市長 本市には海上自衛隊鹿屋航空基地や官公庁の出先機関、また支店も多く、人の入れ替わりが多い場所なので、受入体制が整っているのだと思います。

島崎舞さん 自衛隊があるので、転校生に先生たちが慣れていて受け入れ態勢ができてるのは助かりました。地域も人の出入りに慣れていて、ヨソモノ感がなく子どもたちも受け入れてもらったことがありがたかったです。

は東京ではほぼ見かけませんね。先日、鹿屋体育大学の大学祭に行ったときに、学生が触れ合ってくれたり施設見学ができていたりして、こういった体を動かすきっかけとなる鹿屋体育大学があることも強みだと思います。また、地域で自転車チームを応援するという風土もとても良いと感じています。

島崎舞さん 都会にも農業体験はあるにはあるのですが、わざわざ体験に行かなければならないので、子どもたちにとって「特別なこと」になっ てしまいます。しかし、こちらだと農業は自分たちの生活の一部であると伝えられるので、とても良いことだと思えます。また、輝北の星空や吾平のゴーカートなど自然を生かした雄大な遊び場にも感激しました。

浜洲弥菜さん 自然を体験できる場所が多いですし、保育園も芋掘りや稲作体験といった食育につながる行事が多いので、とてもありがたかったです。特に子どもたちは、自分たちが畑で採った作物を食べられることがうれしいみたいです。

市長 それぞれ共働きで子育てをしているということですね。地方で子どもを育てるメリットとは何でしょうか。

浜洲弥菜さん 私は市内の病院で看護師をしています。

たりしています。また、高須中学校跡地を拠点として、ドローンの講習や農業散布を請け負っています。

鹿屋で子どもを育てる

島崎由真さん 東京にいたときは毎週近所の大型スーパーに行ったり同じゲームをするなど、あまり変わり映えのないお出掛けだったので、こちらは農業まつりなど季節ごとのイベントが多く、また、夏は車を少し走らせれば川や海に行けるので、体験できることが多いです。

地域のみなさんとの関わり合い

市長 ご近所のお付き合いや、学校・保育園を通じた地域との関わりはあるのでしょうか。

浜洲弥菜さん 苗字が珍しいので、すぐに覚えていただき親しく接して主人が農家なのでその関係で助けてもらうことも多く、そういった方々のおかげで生活できています。

浜洲充哉さん もともと自衛官だったので、何か貢献したいと消防団に入りました。消防団や小学校から



▲ドローンを操縦する充哉さん。災害支援などへの活用も視野に入れて活動している



▲舞さん方の祖父と。一緒に土いじりをしたり、自然と触れ合いながら楽しく過ごしている

最後に「こんなことをしたら鹿屋はもっと魅力的なまちになるのでは」というアイデアがありますか。

島崎由真さん 農家さんなどと協力して、都会ではできない体験を提供する受け皿を整備すると、強みを生かせるのではないのでしょうか。

浜洲充哉さん 空き家や耕作放棄地が多いので、移住して新規で農業を始めたいという人に、住宅と農地をセットにして提供するというプランがあれば面白いと思いますし、本格的に営農したい人へのサポートが充実しているとうれしいと思います。

浜洲弥菜さん 鹿屋体育大学やかのやばら園でのイベントをアピールしたら良いと思います。11月にあったわくわくキッズまつりも周りの人たちからとても良かったという声を聞きました。また、普通に売っている



▲浜洲家の3人の子どもたち。休日は公園に遊びに行くほか、農作業と一緒にすることもあった

色々な情報を得られますし、困ったことに対してアドバイスをもらえるのでとてもありがたいです。

島崎由真さん 都会だと月謝が高く親子で習い事するのは難しいのですが、鹿屋に来て子どもと一緒に空手を始めました。そこで新たなつながりができたり、学童の先生や親同士でつながりができることが楽しいと感じています。

島崎舞さん 都会だと不審者などの問題もあって、学校は保護者にとって「立ち入りにくい場所」となっていて、PTAも子どものために何かを積極的にするということはなかったです。こちらだと一緒に子どもを育てようと活動していて、とても素晴らしいと思います。また、学校でも保育園でも先生たちが一生懸命で、ここまでやってくれるのなら親も頑張らなくて、と思うくらい先

お肉やお魚などもおいしくて、県外で同じように購入しても味が全然違うので、そういった強みを前面に押し出したらいと思います。

島崎舞さん 地域として、子どもを受け入れてくれる体制がバツグンに良いと感じています。以前住んでいたところは、行きたいお店が子どもと一緒に食事ができる環境かどうかの確認が必要でした。ラーメンを食べに行くにしても、あつちだと地価の問題からカウンター席しかないお店が多くて、家族5人で横並びといったスタイルで大変でした。しかし、こっちはテーブル席もあれば座敷もある。そういった家族で食を囲む風景を見せるだけでもアピールになると思います。食に関して言えば、給食で使われる食材も地元のもが多く、子どもたちが自然と良いものを食べて健康に育っていく。子どものサッカークラブ体験に行ったのですが、走り回る子どもたちを見て「これには都会の子どもは敵わない」と思いました。また「あそびVIA!」かのや」はとても良い施設で、あんなにきれいな施設が無料で使用できることも驚きです。

島崎由真さん あそこは温水プールや温泉も隣接していて、家族で一緒

生との信頼関係が東京とは違うと感じています。

鹿屋の売り込むべきアピールポイント

市長 長く住んでいると、その場所の良さが薄れてしまいがちですが、鹿屋市の良さや売り込むべきところを教えてください。

浜洲充哉さん ドローンスクールを高須町で行っているのですが、夕日がとてもきれいでそれを撮影するために、片付けていたドローンを再度飛ばしてしまいました。そういった美しい風景があるということを知ってほしいです。「普段目にしていないのは実は特別なんだよ」と伝えたいです。

浜洲弥菜さん 公園が多く、子どもたちが遊べる場所が多いのは良いところだと思います。



島崎由真さん 大きなアスレチック

に水着を着て温泉にも入ることができるので最高です。

市長 両ご家族とも、鹿屋での生活をエンジョイされているようでホッとしました。

お話を伺う中で、住んでいる私たちに気付かない、都会にはない本市の強みを聞くことができました。これまで暮らしてきた場所を離れて新たな地で生活する「移住」では、仕事や子育て、買い物など日常生活を送るうえで様々な基盤が必要になります。本市ではそういったものを整備しながら、移住定住に向けての取り組みを推進してまいりたいと思います。本日は貴重なご意見を聞かせていただきありがとうございます。

鹿屋市移住支援サイト「かのやで暮らす」移住定住者への支援や移住者のインタビュー記事を見ることができます

